

所属・資格 情報科学科・教授

申請者氏名 韓 東力

研究課題		再利用者の価値観を考慮した文書極性判定技術の研究開発
報告の概要	研究目的 および 研究概要	商品や組織の評判情報からの極性抽出・判定について様々な研究が行われている。そのほとんどは評判情報の記述者の感情を自然言語処理の技術により抽出・判定するものである。しかし、評判情報を再利用する立場で考えれば、必ずしも記述者の感情抽出が有用と限らない。利用者の価値観により同じ評判情報でもまったく異なるイメージが受け取られるケースがあるため、既存の技術ではこのようなニーズに対応することが難しい。本研究では、再利用者の価値観を考慮した文書極性判定技術を開発する。
	研究の結果	本研究では、商品や組織の評判情報から個人の価値観に左右されそうな要因・要素を洗い出し、辞書化するとともに、それらを利用者に選んでもらうことで、評判情報の記述者の感情推定ではなく、再利用者の価値観を考慮した極性判定を試みる。企業の口コミ情報を対象としたケーススタディでは、価値観を反映させることで、提案手法に基づく実験結果が、ベースラインの手法より再利用者の判断に類似していることが確認でき、価値観と取り入れることの有用性が示された。
	研究の考察・反省	このように自動的に抽出された極性情報は利用者の価値観により変化するため、評判情報の再利用がしやすく、従来手法よりも柔軟性が高くなるとともに、応用分野が広がると期待できる。本研究では、提案手法の有用性を検証するために、比較的単純なベースライン手法を比較実験に取り入れたが、今後はより客観的な評価検証を行なうため、ベースラインの手法を改善していく必要がある。また、実験に用いた企業数が少なく、実験データを拡張する必要もあると思われる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FIT2018 (第17回情報科学技術フォーラム), Exploitative-enterprise Diagnosis Based on Users' Values, 2018-09-19/福岡大学 ・NLP2019 (言語処理学会第25回年次大会), 地域特有の観光情報の推薦手法の提案, 2018-03-13/名古屋大学 ・IEICE2019 (電子情報通信学会総合大会), 商機創出のための対話型化粧品推薦システム, 2018-03-20/早稲田大学 ・IEICE2019 (電子情報通信学会総合大会), 機械学習を用いた認知症関連の病名推定, 2018-03-20/早稲田大学 ・IEICE2019 (電子情報通信学会総合大会), 複数のクラスタリング手法の統合利用による商品レビュー閲覧支援システム, 2018-03-20/早稲田大学 ・IEICE2019 (電子情報通信学会総合大会), 一般向けと知的障害者向けのニュース記事を利用した外国人向けニュース記事の自動作成, 2018-03-20/早稲田大学 ・IEICE2019 (電子情報通信学会総合大会), 観光内容の地域関連度の細分化手法, 2018-03-20/早稲田大学 ・Elucidation of the influence of the structure of lyrics on the ease of understanding lyrics, Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC2018), 2018.09 ・Corpus-generation Support System Based on News Websites with URL Extraction and News Selection Techniques, International Journal of Digital Content Technology and its Applications, Vol.13, No.1 2019.01 	